

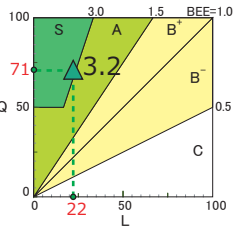
ヤマハ株式会社 本社オフィス棟		No. 03-083-2024作成	
Yamaha Corporation Headquarters Building		新築 事務所	
発注者	ヤマハ株式会社	カテゴリー	
設計・監理	株式会社大林組一級建築士事務所 OBAYASHI CORPORATION	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術／FB	
		E. リニューアル F. 長寿命化 G. 建物基本性能確保 H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社大林組	I. 周辺・地域への配慮 J. 生物多様性 K. その他	

ブランド発信・人材育成の拠点となる ニューノーマル グローバルヘッドクォーター



概要
本建物は静岡県浜松市中央区に計画された、世界的楽器メーカーヤマハ株式会社の本社である。
ヤマハ株式会社は、2007年より本社事業所の再編計画を進めてきた。その集大成として、他敷地にあった本社機能を施設中央へ移転・集約し、市街地に立地する事業所としてコンパクトに統合しながら、既設の開発棟（21号館）・品質管理棟（20号館）・生産管理棟（18号館）との部門連携を強化し、従業員の往来を活発化させながら、シナジーを創造する環境づくりを目的として本社の建替えを行った。



建物データ		省エネルギー性能		CASBEE評価	
所在地	静岡県浜松市	BEI値	0.49	Sランク	
竣工年	2024 年	BPI値	0.82	BEE=3.2	
敷地面積	43,448㎡	LCCO ₂ 削減	61 %	2021年SDGs対応版	
延床面積	22,619㎡	BELS ★★★★★		第三者認証	
構造	S造一部CFT造	ZEB Ready			
階数	地上12階				

シンボル性と環境性能を兼ね備えた外装デザイン
水平強調の安定した基壇の低層部の上に、垂直に伸びあがり大空を写し込むシンメトリーなメインファサードを、省エネに寄与するコンパクトダブルスキncerテンウォールにより構成。高層部の垂直性を強調する縦長プロポーションに分節した壁面は低層部と対比され、本社に相応しいシンボリックな構えを構築する。

機能とデザインモチーフの融合
既設棟に接続し、スムーズな往来を可能にする低層部は、ヤマハ株式会社の代表的な製品であるグランドピアノを想起させる形状や素材でデザインされ、下部を2層吹抜けのダイナミックなピロティ空間・車寄せに、上部をウッドデッキと植栽のテラスとすることで、効率的なネットワークを形成する機能と共に、特徴的な外観デザインを生み出す。

アフターコロナのニューノーマルオフィス
基準階のワークプレイスは幅約63m、奥行約21mの空間で、階高を抑えながらも広さに対して天井の圧迫を低減させるように部分的なスケルトン天井を採用した。自律的な働き方を促すABWの考え方を基本とし、多様な席・場所や高機能な環境を用意することでエンゲージメントを強化し、アフターコロナにおいて出社する価値のあるワークプレイスを目指した。内装デザインはContinuo（通奏低音）& Modulation（転調）という音楽用語をコンセプトとし、ヤマハ株式会社のプロダクトに流れる通奏低音のような普遍的デザインと、ニューノーマルオフィスとしてのスケルトンや木質、パイオフィリック要素により空間の抑揚を与えながら一貫性のあるデザインの構築を目指した。

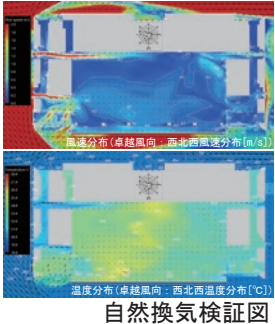
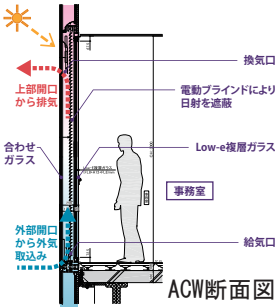
グローバルヘッドクォーターとしての事業継続性
基礎免震及び柱頭免振による耐震性能の向上と合わせ、有事の際のBCP対策本部や帰宅困難者一時滞在スペースの確保、自然換気システム等により、グローバルヘッドクォーターとして万全な事業継続性を備えるオフィスビルを実現した。

快適性と省エネルギーに寄与する建築・設備計画
新本社として期待される環境配慮として、南面のコンパクトダブルスキncwに加えて、基準階ACWに組み込まれた突出し窓及び換気パネルによる中間期の自然換気の取込みや、その他先進的省エネ・創エネシステムの採用により、ZEB Ready/CASBEE Sランクを取得し、快適なワークプレイスと環境配慮を両立した。

設計担当者
統括：賀持剛一／建築：佐竹浩、松岡兼司、佐藤怜、植田博文、安福和弘、木村友哉／構造：河辺美穂、芹澤丈晴、岡村歩、黒川一生／設備：島岡宏秀、小山岳登、石田修平、溝田理沙

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q2. 2. 耐用性・信頼性（免震構造、緊急排水槽、非常用発電設備）
- Q2. 3. 対応性・更新性（階高のゆとり、積載荷重のゆとり、電気・通信配線の更新性）
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制（BPI=0.82、Low-e複層ガラス、コンパクトダブルスキnc）
- LR1. 2. 自然エネルギー利用（中間期の自然換気による換気・空調エネルギーの削減、電動ブラインドでの昼光利用による照明エネルギーの削減、太陽光発電）
- LR1. 3. 設備システムの高効率化（BEI=0.49、LED照明、センサー制御、厨房高効率排気フード・ファン風量制御）
- LR3. 1. 地球温暖化への配慮（LCCO2削減（参照値に対して61%））



- 屋上太陽光パネル
- コンパクトダブルスキnc
- 免震装置(柱頭免振)
- 免震装置(積層ゴム)